

## 今月の例会報告

### 折笠農場新設工場視察例会を開催

農業経営部会は12月11日に例会を開催。30名が幕別町で無農薬・オーガニックにこだわって畑作経営をする折笠農場の新設工場を視察。新型コロナウイルスの感染拡大に配慮するかたちで、1グループ10名、3回に分けて視察しました。

新設工場は自社で生産するオーガニックの作物をオーガニック製品として自社で加工するために建設。HACCPに準ずるかたちで様々なルール作りもしています。工場内にはレトルト殺菌窯などの加工機械から真空パック用の機械など様々な機械が配備され、ワンストップで製品が完成します。

「こんな商品いいな。と、なにか製品のアイデアが浮かんだ時に、すぐに作ってみることができる工場にしたかった。そのために思いついたことができるだけ試せるよう多くの機械を導入した。」ということで、日本ではあまり選択肢がないオーガニック製品に対する思いと今後のビジョンを折笠社長に語って頂きました。

製品は現在開発中で、自社農場で収穫した豆を使った製品などを製造予定。



↑ 新設工場外観

### 畑作農業における通年雇用の取組

農業経営部会農業マネジメントグループは11月28日に例会を開催。今回は大樹町で大根、蕎麦の生産を担う(有)大石農産の大石富一社長をお招きし、大石農産の社員雇用体制、通年雇用の取組についてお話を頂戴しました。

大石農産では冬期間も正社員として社員を雇用し続けています。夏から秋にかけての農繁期に早出して働いてくれる分を冬場の農作業がない約4か月のうち2か月分と換算し、残りの約2か月は社員への投資だと語ります。冬期間は副業もOK。そのため全く別の職場で新たなスキルを磨くもよし、夢の実現に向けて学びに出るもよし、休暇として旅行に出るもよしと過ごし方は様々です。そうすること

で社員も視野が広がり、その結果として会社としても可能性が広がっていくことに価値があるという考えのもとそういった雇用体制を続けています。メリットもデメリットもあり今後試行錯誤は必要な面もあれど、コロナと共に生きる新たな時代には相応しい新たなかたちであると参加者も学びを深めました。

その他にも同社の入植期からの歴史からこれまでの農場の変遷までお話頂き、現在の大石農産に至るまでの紆余曲折を伺ったことで同社の雇用体制だけでなく、農場としての在り方を学ぶ例会となりました。

### 農業経営部会今後の予定

新型コロナウイルスの感染拡大は落ち着きを見せない中ですが、新たな時代にも学びを続けようとZoomを活用して例会を続けています。農閑期である2月以降も例会目白押しです！オンライン配信が可能になったことでどこからも参加も可能です。ご興味があれば同友会事務局までお問合せ下さい。

2/2 培養肉技術の現在とこれから

インテグリカルチャー(株) CEO 羽生 氏

2/16 認証制度に取り組んでの本音語ります！

(株)若山農場 若山氏、(株)中野牧場 中野氏

2/24 大野ファーム・バイオガスプラント視察例会

(株)大野ファーム 大野氏

etc.....